

もくじ

- ・ スサノオノミコト

スサノオノミコト

げんさく： にほんのむかしばなし

イラスト： イシイ アケミ

へんしゅう： イエローボードプロジェクト

むかし むかし、にほんの、いづものくに と
よばれていた ばしょでの おはなしです。

あるひ、ひとりの おとこが、かわのほとりを
あるいていました。そのおとこは
『スサノオノミコト』という なまえの、
わかい かみさまでした。
スサノオは『タカマガハラ』と よばれている
てんのくにで くらしていましたが、
そこで らんぼうな おこないを
かずつづ はたらいたため、
かれは そのちを おいだされ、にんげんたちのすむ、
ちじょうのせかいへと やってきたのです。

スサノオが、かわらの いわのうえに
こしをおろし、ひとやすみしていると、
かわかみから、いっぽんの はしが
ながれてきました。

「ん・・・なんだ あれは。
じょうりゅうに だれか ひとがいるのか？」

スサノオは、かわかみへ むかって
あるいていきました。



やがて スサノオは、かわらで ないている、
わかいむすめに であいました。

「どうした、むすめよ。なぜ ないている？」

「はい・・・じつは このあたりに
『ヤマタノオロチ』という、おそろしい かいぶつが
すんでいるのです。わたくしの むらでは、
まいとし ひとり、わかいむすめを オロチへ
いけにえに ささげる ふうしゅうが あります。
ついに ことしは、わたくしが いけにえになる
ばんなのです」

「なぜ オロチを たいじしないのだ？」

「オロチは、やっつの あたまと、やっつの おを
もつ、ヘビの かいぶつです。にんげんの
ちからでは とても たちうちできません」

「では、わたしが たたかおう。わたしは かみだ。
にんげんではない」

「あなたは かみさまだったのですか！？」

おねがいします、どうか オロチを
たいじしてください！」

「では まず、おまえのすむ むらへ
あんないしてくれ。

オロチをたおす ひとでをあつめよう。

・・・むすめよ、おまえのなは なんともうす」

「はい。わたしくは『クシナダヒメ』と もうします」

